

Vol.6

art  
de  
Vivre

NEWS  
LETTER



## 就労支援 B 型事業所

# 「アール・ド・ヴィーヴル」仕事場の日々

2016 年、障がいのある人たちがそれぞれ得意なことで社会とつながり自分らしく生きる「働く場」をつくりたいと事業所を立ち上げ、活動を続けて今年で 4 年。2013 年の NPO の設立からは 7 年目となりました。メンバーの作品を飾っていただける「作品リース」、作品を活用したグッズの制作と販売、オリジナル名刺制作サービス「つながるカード」などのお仕事と共に、最近は福祉と街の営みを繋ぐイベント全体の監修や、デザインの受託のお仕事にも多くお声がけいただけるようになりました。



皆さんに就労支援施設にどんなイメージを持たれていますか？技術を磨いて就職先を見つけるところ？就職は出来ないかもしれないけれど、軽作業して工賃がもらえるところでしょうか？

アールは、自分に何が向いているのかを考え、チャレンジできる場です。絵を描くのが好きだから通所されている方ばかりではありません。

就職したが自分のペースがニーズに合わず職を失い、自宅に引き籠る…家族と暮らしていくても自分の居場所がない…さまざまな生きづらさを抱える人たちがいます。

それぞれ違った課題を持ちながらも通所されています。その方々にはどんな支援が良いのでしょうか？アールのスタッフは試行錯誤の毎日を利用者さんと共に過ごします。その人にベターな選択は何か。やりとりの中で考えながら 1 日を送っています。

私たちが大切にしていることは、どんな小さなことも自己選択、自己決定を尊重することです。

アールの仕事は、創作以外にも作品リースの交換配達、グッズ製作、グッズ販売、作品の撮影、調理など多岐にわたり、それらに従事するもしないも自分で決めていただきます。なぜなら、自ら決めたことに責任をもって取り組むことを応援したいからです。自分で決める事を繰り返していると、次第に自信も湧いて前向きになり、表情に変化が見られます。自己を肯定できるようになると社会へ羽ばたける気持ちにもなれます。

ひとりひとりに無限の可能性があります。障害がある人にはこの作業が良いと一択で決められるものではないことを、アールのメンバーが体現しています。

就労支援 B 型事業所アール・ド・ヴィーヴル 所長 萩原美由紀

## アールの仕事いろいろ

### グッズの制作と販売

創作活動から生まれた作品から、デザイナーの手を経て、グッズが生まれます。組み立てや販売の準備、パッケージは事業所で。販売店さんへのお届けも「行きます！」と手をあげたメンバーが担当します。



## アールの仕事いろいろ

### 作品リース

アールのメンバーの作品を実際に見ていただけるリース。

数ヶ月に一度の交換の際に、額に入れてお届けし設置する、という一連の作業にメンバーが関わります。

お届け時にはリース先の方々と交流できることで、メンバーの責任感や、やりがい、誇りが育つ場になっていると感じます。

月々 5000 円からご利用いただけます。ぜひご利用ください。



陶板浴ひだまり様



小田原短期大学 学長室

感想を述べ合ったり、作者の思いに心をはせたり…

アールさんの作品たちは、季節感の無い学長室にさわやかな風を送りながら、この部屋を訪れる人たちをいつもつないでくれます。作品との出会いと別れが生活の抑揚となり、私の日々を彩ってくれます。感謝！（小田原短期大学 学長 吉田眞理先生）

### リースをご利用いただいているみなさま（敬称略）

ふくらん・美容室MU・小田原市役所・横田小児科・ふらんす亭・循環器中町クリニック・こうの歯科医院・さがみ信用金庫本店・モルトフェリーチェ・株ミクニ小田原事業所・サンネット(株)・青巒荘・(株)鈴廣かまぼこ本社・瑞の香り・まるだい運輸倉庫(株)・整体半蔵・陶板浴ひだまり・小田原ガス本社・小田原ガスエコリア・カフェグリット・(株)クレスコ・日本精鉛(株)・岡藤商事(株)・小田原短期大学・ファーレン小田原・ダイニングニコ・株松岡東京 Central DC・小田原箱根商工会議所・(株) JAJUX・県西地域県政総合センター・マナクリニック・小田原衛生公社

### 日々のスナップ



令和になった日に書き初め



満開の桜を見に。  
お昼休みには散歩に行く日もあります。



お楽しみ給食。この日はお好み焼きを作りました



毎日生まれる作品を整理



お借りしている畑で農作業。夏はブルーベリーのお世話しお  
秋冬は野菜を植えて日々の給食でいただきます。



### スタッフより

アール・ド・ヴィーヴルに縁あって関わり、利用者それが自分らしく生きる、人として成長できる、そんな場所になればと願い、共に成長させてもらっています。

創作はもちろん、それ以外にも畠作業、料理、ケーキ作りなどいろいろなことを体験し、実感してもらいます。その中で新たな成長、才能を見られる事は本当に心踊ることです。日々の生活の中で、些細な事でも自分でできることを増やし、自主性、生活の質の向上に繋げていきたいものです。一人ひとり成長できるチャンスを作る、見逃さない、それぞれの思いに気付ける感度を持ってみたいと願っています。

社会の中では、様々な生きづらいことは確かにあるけど、自分のペースで自分らしく成長していきたいものです。（支援員 平井巳和子）

さまざまなお仕事をさせていただきました

## 小田原かまぼこ桜まつり



3月30日(土)・31日(日) 小田原蒲鉾協同組合さんからお声がけいただき、中津川アートディレクターの協力で第23回小田原かまぼこ桜まつりの「かまぼこ板アート」ワークショップを企画と運営を担当。桜の咲く小田原城址公園ではたくさんの方がかまぼこ板に絵を描き、アトリエで準備した作品を加えて、入口ゲート脇の大きな作品を仕上げました。

## ジャパンウォーク2019 ゴール証アートワーク



体操の池谷幸雄選手と！



点字入りのゴール証

東京オリンピック2020応援イベント、豊洲ジャパンウォーク2019のゴール証明書のアートワークを2018年に続いてご依頼いただきました。5月25日にはジャパンウォークに初参加。自分たちの作品が入ったゴール証を目指して、ショートコースの5kmを歩きました。

## ご注文600件を超えました！

アール・ド・ヴィーヴル オーダーメイド名刺制作サービス

## つながるカード

メンバーの作品をモチーフにした「つながるカード」。  
完全オリジナルデザインのお名刺のご注文もいただいています。

通常版：3,500円 お名前手書き版：4,500円（各100枚・税別）

Webからもご注文いただけます。2020年には新シリーズも！

### ● つながるカード

<http://artdevivre-odawara.jp/project/namecard/>

## 福だるまの絵付け



昨年夏、壁画ペイントのお仕事をいただいた箱根強羅公園内の体験工房「箱根クラフトハウス」さまからの委託で、福だるまの絵付けを担当させていただきました。陶芸作家の寺本さんが指導をして下さり、できあがった全てオリジナルの180個のダルマ、リニューアルオープンのギフトとして、ゲストの方々より好評でした！ どうれしいご報告をいただきました。

## おだわらツーデーマーチ



点字入りのゴール証

11/16(土) 17(日)は毎年恒例、小田原市主催のおだわらツーデーマーチ。今年もアールは自家製ケーキとコーヒーとグッズの販売を行って、参加するみなさんを歓迎しました。メンバーたちは生き生きと接客したり、コーヒーを淹れてくれたり。普段のアトリエとは違う姿に成長を感じます。外に出ること、普段と違うことにチャレンジする楽しさ、大切！



近隣の方にはメンバーが配達します  
(小田原市本町ママまんぐルーム saMa-saMa様)

## 歓迎！ワラビーズ！

2019年はラグビーワールドカップで日本中が盛り上がりましたね！小田原市では、ラグビーオーストラリア代表ワラビーズ、女子セブンズの合宿を受け入れ、城山競技場で合宿が行われました。アール・ド・ヴィーヴルは、小田原市ラグビーオリパラ活性化委員会よりワラビーズ応援アートワークを受託し、ワラビーズ応援Tシャツのデザイン制作、フラッグ制作を行いました。



ワラビーズのマイケルフーパー・キャプテンと！

さらに、6月2日(日)、株式会社小田原衛生工業様とダイナシティ株式会社様の協力で、パッカー車（ごみ収集車）をワラビーズカラーにペイントするアートワークショップを開催しました。当日は幅広い年齢層の参加者60名（保護者のご同行を含めると80名以上）が筆を取り、真っ白だったパッカー車をワラビーズのチームカラーにちなんだ色にペイントしました。ボランティアは32名。特に地元西湘高校ラグビー部の部員が事前準備からONE TEAMで手伝ってくださいました。子どもたちが乗る脚立を押さえたり、順番が回ってこない子どものために場所を融通したり「いいね！」とあたたかい声をかけたり、さすがラガーマン！大活躍でした。朝から会場設営やパッカー車の養生、絵の具の準備、参加者の誘導など、そのほかのボランティアのみなさんにもたくさんの協力いただきました。



パッカー車ご提供：株式会社小田原衛生工業さま ボランティア：西湘高校ラグビー部・有志のみなさま

企画・指導 中津川浩章氏（アール・ド・ヴィーヴル アートディレクター）

会場：ダイナシティWESTエントランス前 主催：小田原市ラグビー・オリパラ活性化委員会 企画・共催：NPO法人アール・ド・ヴィーヴル

# 展覧会

## ワークショップ

障がいを持つ方ならどなたでも、子どもから大人まで、自由に創作活動ができるアールのワークショップも今年で8年目。小さな子どもだったメンバーもいまでは中学生、高校生。新たにホームページなどから情報を探して参加してくださる方もいらっしゃいます。アールを必要としてくださる方との出会いの場にもなっていて、長く続けることの意味を感じています。



### アートワークショップ（中津川浩章先生）

3才～50代まで幅広い年代の方々が月二回アトリエに集まってそれぞれのペースで描く時間。2012年にスタートしたひよこアートプロジェクトから数えると、今年で8年目となります。

「できた！」と中津川先生のところに作品を持ってきて作品を紹介してもらう時のみなさんの笑顔は、恥ずかしそうながらも、誇らしげです。



### お料理ラボ (なかがわ真基子先生)

小田原ガス・エコリアさまの協力で、最新鋭のキッチンをお借りしています。真基子先生の障害がある人にもわかりやすい説明のおかげで、包丁さばきも直火使いもみんな慣れたもの。季節が感じられ彩りも美しい献立はおいしくて栄養満点。保護者にも人気です。



### フラダンス

原久美子先生率いるマーラマポノのボランティアさんのご指導は今年で12年目。ステージ依頼もいただいております。



### 親子でヨガ (YURIKO先生)

いつものアトリエがヨガの日はヨガスタジオに変身。気持ちのいい時間をみんな楽しみにしています。

### JOY JOY English

Joe Kelly先生による季節のスキット。ハロウィーンの季節に行われたミイラ wrapping ゲーム！

## スクランブル・ダンスプロジェクト

主催・小田原市役所文化政策課 共催・NPO法人アール・ド・ヴィーヴル  
協力 大野一雄舞踏研究所 小田原市文化創造活動担い手育成事業

今年も講師の松岡大さんの指導の元、4回のWSを開催しました。11/30（土）の会では中津川アートディレクターの監修で制作した薄紙の作品を持ち込んで、ダンスとコラボ！松岡さんの声に応えて体を動かしながら、紙を体に巻き付けたり、二人一組で動きを作ったり。みんなノリノリで、ひらひらと舞う薄紙の感触や音とダンスをしているようでした。来年7月の公演に向けていろんなチャレンジを重ねています。

どんな舞台になるのか、乞うご期待！



【開催回数】2018年12月～2019年11月まで  
アート：23回 / 332名  
英語：17回 / 106名 ヨガ：18回 / 124名  
織り：21回 / 35名 料理：4回 / 39名  
陶芸：3回 / 29名

# 自分らしく生きる10

## アール・ド・ヴィーヴル展

祝10回

額も手作りして作り上げた初回から7年。

第10回も初回同様、ダイナシティWESTにある「ギャラリーNew新九郎」で開催することができました。

6月29日には恒例のギャラリートークを開催。当日の来場者数は217人。ギャラリー1日の来場者数記録を更新したそうです！第1回からご覧くださった方々からは、メンバー達の成長を喜んでいただき、懐かしいエピソードをお話しくださる方も多く、みなさんに支えられて歩んで来たことを実感しました。



設営は前日の夜。スタッフだけでなく、仕事終わりに駆けつけるお父さん、お母さんたちが大活躍。



メンバーたちは、大勢のお客様の前で堂々と自作を語り、多くのお客様が耳を傾けてくださいました。

## 展示

2018年 12/8～9 神奈川県主催 人権メッセージ展 出展 横浜クイーンズスクエア |  
2019年 1/1～7 絵馬展出展 二宮神社 | 6/26～7/1 アールドヴィーヴル展自分らしく生きる10 ギャラリーNEW新九郎 |  
10/26～27 ガス展 湘南電力ブース展示 | 11/18 小田原箱根商工会議所式典 アート展示

## フラダンス・ステージパフォーマンス

2019年 7/19 ミクニ納涼祭 | 10/20 アロハカバー フラダンス出演 横浜

あたらしいプロジェクト

## 重度障害がある人のための

### ワークショップ ファシリテーター・中津川浩章アートディレクター

どんな重度の障害を持つ方にも、表現する楽しさ、うれしさを知ってほしい。

アール設立時からの願いが叶い、2019年度福祉医療機構(WAM)「地域連携助成団体」として採択いただき、重度の障害がある方のためのアートワークショップを開催しました。

5月26日に第一回を開催し、12月15日まで全20回。

ひとりに2人、または3人のスタッフがサポートします。車椅子に乗ったまま、または支援スタッフに体を支えられながら、最初は恐る恐る筆を動かしていた人も、次第に自分の力で描く楽しさに気づき、その喜びを声や体で精一杯表現してくれます。

アートは縁遠い、表現することなど、うちの子に、うちの施設の方にはできるはずないと思われている方、そんな方々にこそ是非体験していただきたいワークショップとなりました。



アウトリーチとしては、小田原養護学校の肢体不自由部門、小学部、中学部、高等部に3回訪問して、みんなで大きな絵を描くワークショップを行いました。

車椅子に乗ったまま長い筆やローラーを使って描いてくれた子や、車椅子から降りて絵の具を手で感触を確かめる子、次第に表情が豊かになり、自由にのびのびと描いてくれました。先生方や保護者の方より「生徒一人一人の笑顔が素敵だった」「好奇心旺盛な子どもたちが、進んで興味をもち、自由に表現する姿を見て、親としてもうれしい」等のコメントをいただき、表現する楽しさを味わっていただけたことを実感できました。

そのほか、「ひよこの会」(県西地域に住むダウン症児と保護者のサークル)「足柄療護園」(南足柄にある障害者入所施設)でも開催。来年度からも、また違った形で、重度の障害を持つ方のための創作の場を作りたいと思っています。

初めて自分の手だけで線を描く。

その喜びに思わず彼女は叫んだ。

そして喜びの声で唸り続けものすごい力で筆を動かした。その線は掠れて掠れて行き場をなくした叫び声のようだ。

不随意運動による「できないこととできること」がぶつかり合った線のもつリアリティ。もちろん描き手の思い通りではない。

けれどその軌跡が彼女、彼らの生きていることそのものを表象している。

それは重度の障害がある人たちだけではなく私たちの表象そのものもある。

そして初めて自由に線が描けるを喜びを目の当たりにして、ただ線を描くこと、色を塗ることの持つ大きな意味を知るのだ。

ここにアートや芸術、表現という言葉で定義できない世界の秘密がある。



中津川浩章(美術家/アール・ド・ヴィーヴル アートディレクター)

アールの活動は社会と繋がっています

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### 「かながわSDGsパートナー」「おだわらSDGsパートナー」にアールが登録されました

「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称 SDGs(エス・ディー・ジーズ)。2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。

アール・ド・ヴィーヴルでは、SDGs17目標のうち、3番「すべての人に健康と福祉を」、10番「人や国の不平等をなくそう」17番「パートナーシップで目標を達成しよう」に関わる活動を行なう団体として、2019年10月4日、神奈川県「SDGsパートナー」に登録され、黒岩知事より登録証をいただきました。



小田原市のパートナー登録証は木製！

### 小田原市立城山中学・酒匂中学のみなさんが赤い羽根共同募金でご協力くださいました

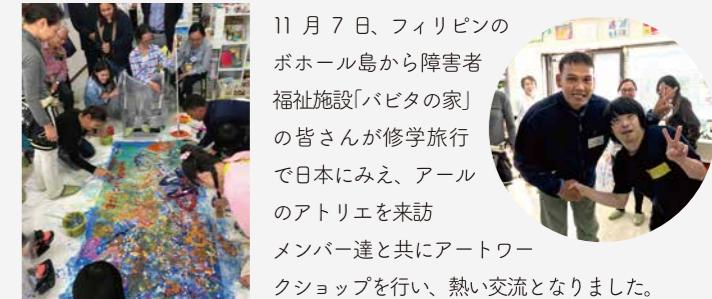
10月、11月、アトリエに地元小田原の城山中学校、酒匂中学校の生徒会の皆さんと小田原市社会福祉協議会の山居さんが来所。今年の赤い羽根共同募金活動を行ってくださるみなさんが、どんな施設で何が必要かを知りたいと取材にいらしたのです。

作品がたくさんあって明るい！フィギュアの精巧さにこれは職人だ！の声。自分の言葉で募金を呼びかけたいと言ってくださる生徒会の皆さん、まさにSDGs！小田原駅で募金活動中のみなさんの姿を目にして、暖かい気持ちにさせていただきました。



10番「人や国の不平等をなくそう」の事例として紹介されています

### フィリピンボホール島の福祉施設のみなさんが来訪されました



11月7日、フィリピンのボホール島から障害者福祉施設「バビタの家」の皆さんのが修学旅行で日本に来訪。メンバー達と共にアートワークショップを行い、熱い交流となりました。

## 共に学ぶ・啓発プロジェクト

# 映画上映会「地蔵とリビドー」

[監督] 笠谷圭見（2018年／62分／日本）

2019年2月2日

今回上映した映画は、滋賀県にある障害者福祉施設「やまなみ工房」が舞台。海外のアートシーンでも高い評価を受ける作品を多数生み出す施設の日常、そしてその社会的な受容が、アート・音楽などさまざま視点から語られる映画『地蔵とリビドー』。中盤では、聞き手として中津川アートディレクターも登場します。ぜひ小田原のみなさんと共有したい！と熱望した映画上映会。170人以上の方が参加してくださいました。

利用者さんの日常や施設の様子、世界からの作品の評価。現代的でスタイリッシュな音楽や映像に、障害者福祉の常識が覆され、驚く方も多いかったのではないでしょうか。

上映後は、ボストン・ハーバード大学の展覧会から直行してくれたやまなみ工房施設長の山下完和さん（写真右から二番目）、萩原理事長（左から二番目）、中津川アートディレクター（一番右）、司会牛山理事（一番左）の4名で、アフタートークが開催されました。

ロックミュージシャンのような服装と黒い帽子で登場した山下施設長。当日のスーツ、そして中津川アーティ



トディレクターのスカーフはやまなみ工房の作品から生まれたランド「PR-y」のもの。かっこいい！

滋賀はさすがに関西文化圏。何度も爆笑が起き、会場が揺れます。

軽妙な語り口で山下さんの語られた内容は、しかしスタイリッシュな映画の印象とはかなり違うものでした。

「世界に評価されるアート作品を作るとか、そんなことはゴールにしていない。  
ただ彼らが穏やかに過ごせるにはどうしたらいいか、それだけを考えている」

「ちゃんと決められた通りにやりなさいよ、時間までに終わらせなさいよ、がんばれがんばれ、と応援なんかしてたけど、

それはこっちの都合であって、本人が全く望んでいない、ということにあるとき気づいた。」

障害がある人の表現を尊重する山下さんの言葉に、会場は熱気と拍手と歓声に湧きました。

トーク終了後も山下さんと握手したり話をしたい人の列がいつまでも途切れませんでした。



## やまなみ工房 山下施設長からメッセージをいただきました

あの日の笑顔と同じだ…座り心地の悪い事務所の椅子にもたれ、手にしたスマホからふと目に飛び込んだ一枚の写真。

僕は32年前のことを昨日のように思い出した。

そう、あの日の笑顔に出会うまでの、僕は何一つ疑問を感じることが出来ぬまま作業という名の制約と制限を彼に与えていたのだ。その逃げ場のない時間と空間の中、誰の指示でもない。自ら短い鉛筆を握りしめ、彼は夢中で小さな紙切れを塗りつぶしていただけ。「何をしているんだろう」、みると僕の姿を変える紙切れと指先の魅力に気づく力など僕には到底ない。ただ、彼の表情に僕の時間は止まった。納期を見通しとは違えた変化のない退屈な日常の繰り返し。数分？いや数秒だったかもしれない。初めて出会った生きた笑顔は僕のこれまでを瞬時に否定し、彼の本音に真っ直ぐ向き合うことを約束させた。

今、彼と過ごすやまなみ工房には86人が自分のルールとスタイルに従い、それぞれの幸せを様々な形で表現する。自分らしく生きるために。

周りを見渡せば見える景色は随分と変わった。東京オリンピック・パラリンピックに向け障害のある人々の芸術・文化活動が推進されている。障害者による文化芸術推進法も制定された。国内外の芸術分野において、過去と比較にならないぐらい多くの障害者が活躍している。とても喜ばしいことだ。

でも、忘れちゃいけないよ、あの日の思い。

スマホから飛び出したアール・ド・ヴィーヴルのFBに写し出された満面の笑みは浮かれた僕の足元を再び照らす。

32年前、そうあの日の衝動と同じように。

写真は僕を問いただす。芸術とは何も優れた作品を生み出すことじゃないんだよ。社会の賞賛や評価を気にすることなく自分の愛する世界を築くことだと思わないかい。と。

これからも安心できる時間と空間、やさしい眼差しと嬉しい言葉があればいい。

自らが大切な価値ある存在である。そう感じる事の出来る日常の中におかれてこそ生きる喜び、表現する喜びを初めて感じることが出来るのだから。

ありのままの彼らが今日も笑顔で満たされ輝きを放ち続けられますように。

やまなみ工房 山下完和

## スタッフ研修

### アトリエコーナス&やまなみ工房へ

2019年8月28日～29日

アール・ド・ヴィーヴルの研修引率で大阪阿倍野にあるアトリエコーナスそして滋賀のやまなみ工房のふたつの福祉施設を訪れた。

アトリエコーナスは「重度障害者も街の中でみんなと生きる」という理念で運営され、やまなみ工房はアールが上映会をした映画「地蔵とリビドー」の舞台になった施設だ。もう何度も見学している二つの施設だが、同行している人たちの目的を考えてコーディネートするためか、行きたびに異なったものが見えてくる。二つともアート活動を長く実践している福祉施設でアールの大先輩のような存在だ。

その活動内容、なぜ素晴らしい作品が生まれるのか、環境、支援員と利用者との関係性はどうなっているのか、など理想や理論ではなく、行って実感することではじめて分かることがある。

最初は固かったアールのスタッフの目が次第にキラキラしてくる。二つの施設の実践を見るにつれて感動、驚き、好奇心、自分の支援はどうなのかという自己省察、反省そして確信に至る。

コナス、やまなみ工房もそれぞれの具体的な問題の解決から現在のスタイルを作り出し、まだ現在進行形だ。どのような取り組みや支援が利用者さんの一番の幸せになるのかを考え、実践してきた軌跡。さまざまな目に見えないものと戦ってきたその姿勢を学ぶことができ、さらにその目的の先にあるものを共有できた研修だったように思う。

帰りに送っていただいた車の中でやまなみ工房山下施設長が運転しながらつぶやいた「福祉の枠の中ではできることはすべてやった。やりつくした。それからアート活動をするようになった」という言葉がすべてを物語っている。（中津川浩章アートディレクター）

アトリエコーナス <https://corners-net.com/>  
やまなみ工房 <http://a-yamanami.jp/>



アトリエ・コーナス 白岩高子代表と、古民家だった空間は制作スペース中庭など隅々まで洗練されている



バスが見えなくなるまで見送ってくださいました  
やまなみ工房のみなさん

## 夏のアート研修旅行 2019

### アールメンバーは清里フィールドバレエ・茅野へ



メンバーが楽しみにしている恒例の研修旅行。初日は清里へ、夜は、萌木の村で野外バレエ、ドンキホーテを鑑賞しました。美しさに一同うっとり。

翌日は、茅野へ。社会福祉法人この街福祉会さんが運営する生活介護施設この街学園を訪問。

林施設長より、この街学園の始まりから現在までの活動を説明いただき、アールのメンバー達は、この街学園の鈴木真知子さんが企画してくださいましたアートワークショップに参加し、たくさんの方々と交流できました。

17年前、地域に重度の障がいのある人が通う場所がなく、無いなら自分達で作ろうと始めたこの街学園。今は10以上の施設を運営されています。この街学園 <http://www.konomachi.or.jp/gakuen/gakuen.html>

## こんな出会いもありました！

「地蔵とリビドー」を観に行ったことがきっかけでアールドヴィーヴルを知りました。

活動に興味を持ち、数日後にアールを訪ねて、自分にできるボランティアは料理です、と給食の調理補助を申し出で、現在は毎週1日お手伝いに通っています。最初は利用者さんたちと言葉を交わせませんでしたが次第に距離が縮まって、今では名前で呼んでくれたり、美味しいスープだね、ありがとう、なんて言ってくださいます。

利用者さん達に、こちらが元気をもらっています！

ボランティアスタッフ：田上照美



## 講演活動

### 法政大学で講演を行いました。

法政大学でNPO論の授業をされている渡真利紹一先生からお招きいただき、理事長の萩原がゲストスピーカーとしてアールドヴィーヴルの活動を事例発表しました。

40人の学生さん達に向けて、NPO設立の経緯から今までの活動を紹介し、今後の展望などお話ししました。

学生さん達が書かれたリアクションペーパーには、感想がぎっしり。

「できないことに目を向けてないで、一人一人のやりたいという思いを大切にする考えに共感した。」「社会と対等に繋がれる仕事は理想的。」「活動のきっかけにあった無関心、この線引きや壁がなくなった先にある関心とはどのような形、関係性だろうか。」など深く掘り下げられた考察から、次のステージへ進むヒントをいただきました。



講演活動 2019/3/3 足柄療護園 講演会（中津川浩章アートディレクター）| 2019/9/14 小田原市健康づくり課主催 自殺予防対策講演会（萩原理事長）| 2019/9/25 小田原北ロータリークラブ 卓話（萩原理事長）| 2019/11/20 法政大学 NPO論（萩原理事長）

# 寄付をお願いいたします。

生活介護施設設立に

ご支援をお願いいたします。



アール・ド・ヴィーヴルでは現在、様々な障害のある方が40人が通所されています。

運営していく中、新たな地域課題として重度の障害がある方が通所できる施設が少ないという問題が明らかになりました。

重度の障害があっても自分らしく生きたい！その希望を叶えるべく、令和3年春、生活介護施設を作る決意をいたしました。

どんな障害があろうとも地域で共に暮らす仲間が誰一人取り残されないコミュニティを目指していきたいと思います。

施設の設立にご賛同いただける皆様、是非ともご寄付のご協力をお願いしたいと思います。

お問い合わせ アール・ド・ヴィーヴル萩原まで 0465-25-4534（電話・FAX） info@artdevivre-odawara.jp

## アール・ド・ヴィーヴルは条例指定NPOとなりました／

地域課題の解決促進を図ることを目的に、地域で公益的な活動を実施するNPO法人を条例で指定するものです。

今後、アール・ド・ヴィーヴルへお寄せいただいたご寄付は、個人住民税（都道府県民税）からの税額控除の対象となります。

## 賛助会員へのご入会・継続をお願いします

NPO法人アール・ド・ヴィーヴルは、障がいのある人たちに「自分らしく生きる」場を提供し、社会参加を応援しています。

そして彼らの社会的自立のため、活動による収入を得ることを目指しています。

健常者も障がい者もなく地域で共に生き、ひとりの人間として自分らしく自信を持って生きるきっかけを作ることが私たちの活動のミッションです。

この活動は、個人・団体・企業のご寄付と、会員の年会費、団体・企業による助成金で運営されています。

おひとりでも多くの方にアール・ド・ヴィーヴルの趣旨へのご理解とご賛同をいただけますよう心よりお願い申し上げます。

賛助会員申込書ダウンロードリンク：<http://artdevivre-odawara.jp/supporter/>

賛助会員（年間）個人 一口 5,000 円：団体・法人 一口 10,000 円（ともに一口以上）

よろしくおねがいします！



## 2019年公益財団法人木口福祉財団様より福祉車両助成をいただきました

車椅子で乗用できます。誰でもどんな場所にでも外出が可能となりました。心から感謝申し上げます。

公益財団法人木口福祉財団 <https://kiguchi.or.jp>



### ご支援、ご協力、ありがとうございました。

■賛助会員（個人）52名

■法人会員 ■法人会員（44社）（株）アークル / アシストクルー（株） / 株ういろう / 株エスアールシー / 岡宮産婦人科医院 / 株小田原衛生工業 / 小田原ガス（株） / 株小田原百貨店 / 株クニヨン / （医）けやき会安間医院 / （社福）県西福祉会 / （合）Sasaki Family Company / さがみ信用金庫 / サンネット（株） / 株湘南クロス / 竹広林業（株） / 株ジー・アンド・シーアート箱根クラフトハウス / 正庵 / ジュエリーシマノ / 杉崎茂法律事務所 / 鈴廣かまぼこ（株） / 株セトプリント / 相洋産業（株） / 曽根歯科医院 / 株ティー・アイ・シー ミウラ / 株T-FORESTRY / 株東海ビルメンテナス / ニュートヨオート（株） / （有）花のコウノ / 西湘ビルメンテナス協同組合 / （医）白鷗医院 / 株濱田屋 / 平原眼科クリニック / 株古川 / ヒューマンズ・ネット（株） / 株MAA / 株まるだい運輸倉庫 / 万葉俱楽部（株） / 株ミクニ小田原事業所 / 株ミタニ / （有）みのさんファーム / （医）山田クリニック / （医）横田小児科医院 / 株リオテック（敬称略）

■助成：WAM 独立行政法人福祉医療機構 / 公益財団法人 木口福祉財団 ■寄付：湘南電力（株） / 小田原北ロータリークラブ

### NPO法人 アール・ド・ヴィーヴル

■理事 / 萩原美由紀 / 横田俊一郎 / 杉崎 茂 / 中津川浩章 / 萩原武夫 / 鈴木博晶 / 平井巳和子 / 牛山恵子 / ケリー佳枝 / 柴田和生 / 高橋剛司  
■監事 / 小室全由 / 山崎明子

■正会員（44名）萩原美由紀 / 秋鹿浩史 / 秋鹿明子 / 江澤良江 / ケリー佳枝 / 杉崎 茂 / 中津川浩章 / 中山貴子 / 平井巳和子 / 横田俊一郎 / 牛山恵子 / 国兼由美子 / 渡邊礼子 / 川口圭子 / 蘆田浩子 / 塚本やよい / 山田浩子 / 門田美恵子 / 阿部まゆみ / 常盤きえ子 / 山崎明子 / 中清水弘子 / 八木美紀 / 佐藤和美 / 藤田典子 / 藤原明子 / 北村久美 / 飯塙智子 / 高橋久美子 / 斎藤智子 / 萩原武夫 / 柴田和生 / 町田義三 / 中谷徳宏 / 鈴木幸恵 / 青木俊子 / 石垣由加理 / 待寺 幸 / 鈴木 博晶 / 赤石 茶里 / 吉本麗智子 / 近藤孫範 / 小室全由 / 高橋剛司

〒250-0055 神奈川県小田原市久野 906 アネシスヒルズ 102

■ TEL・FAX : 0465-25-4534 ■ Email : [info@artdevivre-odawara.jp](mailto:info@artdevivre-odawara.jp) ■ Web : <http://artdevivre-odawara.jp>  
art de vivre NEWS LETTER 6号 : 発行・編集 : NPO 法人アール・ド・ヴィーヴル 2019年12月15日発行

表紙絵 : 大木里沙 / ページ内の作品 : アール・ド・ヴィーヴルのメンバー